

大月のフリースクール 被災地・仙台で特別授業

7人が奉仕活動 畑のがれき撤去



被災地で片付けのボランティアに取り組み「オンリーワン」の生徒ら
— 仙台市

「役に立てて良かった」

不登校児童、生徒の支援を目的に開校している大月のフリースクール「オンリーワン」(井上弥生主宰)に通う生徒が、東日本大震災の被災地へボランティア活動に出向いた。井上さんは「生徒には人のために働くことの意義を感じてほしい」と話している。

特別活動の授業の一環で、13〜16歳の生徒7人が5月中旬、スクールのスタッフを通じて知り合った仙台市の農家を訪問。津波によりレタス畑にがれきや土砂が散乱する惨状を目の当たりにし、言葉を失う生徒もいた。

現地の家族だけでは整備に1週間以上かかるほど広大な畑だったが、生徒はがれきを撤去したり被害を受けた作物を片付けたりした。「数時間程度の作業だが、一生懸命働いて見違えるほどきれいになった」(井上さん)という。

同校の生徒は地震発生直後の3月、駅前まで街頭募金活動を実施。「ほかにできること

はないか」と声上がり、ボランティア活動に出向くことになった。生徒からは「自分

たちが少しでも役に立って良かった」との声が聞かれたという。井上さんは「今後もできるだけ継続していきたい」と話している。